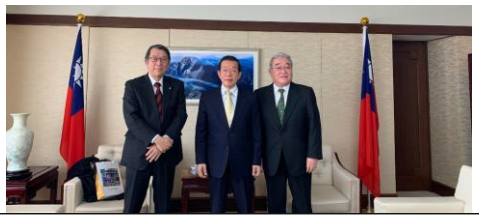

左から三村会長、謝代表、小椋副幹事長

台北駐日経済文化代表処にて

日台稲門会 ニュースレター3月号　　2023年3月９日

日台稲門会会員・会友の皆様

日台稲門会ニュースレター3月号をお届けします。

１.挨 拶　（三村達　会長）2

２. 謝長廷代表を表敬訪問　（小椋和平副幹事長）2

３.台湾便り１７　台北稲門会より　（斎藤征二さん）2

４. 経済ニュース　（劉彦甫　記者）3

５. 最近の台湾関連ニュース　5

６. 月例サロン及び講演会（報告）

①山田周平先生サロン講演(2/18)　6

②若林正丈名誉教授講演会（最終講義）(2/25)　12

７.春季講演会のお知らせ　（予定）
講演者：一青妙（ひととたえ）さん (4/8)　13

８.台湾ドラマ紹介「茶金 ゴールドリーフ」（川村由紀）　13

９. 台湾有事と中国のジレンマ　（橋本紀明）　14

10.『台湾検定６級』（華語に興味のある人向け）　14

編集後記　15

１．　挨拶　（三村達　会長）

　吹く風にも春の爽やかさが感じられるこのごろ、皆様におかれましてはますますご活躍のことと思います。

年度末を控え何かと慌ただしいこととは思いますがご自愛ください。

２. 台北駐日経済文化代表処謝長廷代表を表敬訪問（副幹事長小椋和平）

2月２７日三村会長と共に台北駐日経済文化代表処を訪問し、謝長廷代表と面談した。冒頭、改めて６月１０日の総会記念講演をお願いし、快諾を得た。その後、日台交流の在り方に就いて意見交換し、当方より各日台友好団体が個別に活動している現状を鑑み、民間団体の情報発信力強化の為にも代表処主導で日台友好団体の横連携を支援する仕組み作りを検討願えぬかとの申し出を行った。

謝代表からは、重要性は十分理解するが、友好団体は非常に多く、どこで線引きするかが難しい。その為にも認識を共有出来るテーマ作りをする必要があるとのご意見が出された上で、７月～８月に第１回目の会議を開催すべく準備を進める様、事務局に指示が出された。

又、謝代表より民間団体に期待するテーマとしては、「力（武力）による現状変更に反対する」との声をあらゆるルートで繰り返し民間団体から上げて貰うことが非常に重要で、地域の平和が地域の経済発展に繋がるとの認識を中国を含む民間組織で共有することが肝要とのコメントがあった。

３. 台湾便り17　台北稲門会より（斎藤征二さん）

昨年秋の統一地方選挙で台北市長に当選した、将万安氏(蒋介石のひ孫)が2・28事件を追悼する記念式典に出席し、謝罪しました。しかし一部の人たちは反発し混乱もありました。

3月18日には早慶合同新年会が開かれますが、ゲストスピーカーとして将万安市長を予定しております。どのような話をされるでしょうか。

2・28事件追悼の模様については3月1日付けNNA　TAIWANのニュースを紹介します。

総統２・28事件追悼、蔣介石ひ孫の市長「謝罪」 2023年3月1日NEW

【台北共同】台湾で1947年に当時の国民党政権が台湾人の抵抗運動を弾圧し住民を殺傷した「２・28事件」から76年となった２月28日、南部・台南市で犠牲者を追悼する記念式典が開かれた。蔡英文総統は「事件の教訓をくみ取ることが台湾人に正義と勇気を与え、新時代の試練に立ち向かえる」と述べ、教育などを通じて記憶を受け継いでいく考えを示した。

一方、台北市は「二二八和平紀念公園」で式典を開き、事件を主導した蔣介石のひ孫、蔣万安・台北市長が「市長として心からの謝罪」を表明し、民主主義を守ると訴えた。ただ、複数の人間が壇上に乱入し「殺人者、ひざまずいて謝罪せよ」と叫ぶなどしたため、当局者が排除するまで、あいさつが中断する一幕もあった。

蔡氏は、事件で国民党に拷問、処刑された弁護士、湯徳章（日本名は坂井徳章）に触れ「台南市民を守るために（抗議活動に関わった人たちの）名簿提出を拒否し、破棄した」とたたえた。湯は父親が日本人で母親が台湾人。旧居は台南市民の募金で2021年３月に記念館に改築された。

蔡氏は事件に関わりのある跡地を独裁時代の人権弾圧や不正義を記憶に刻むための「教育基地」にする方針を表明。また、当時の政治資料を積極的に公開して真実解明を進めるとし、関係部門に作業加速を命じた。

独立派団体などは加害者の子孫である蔣万安台北市長との共催は「耐えられない」として市の式典とは別に、近くの自由広場で追悼式典を開催した。

４. 経済ニュース（劉彦甫　記者）

今月の劉彦甫さん（WTSA 出身、東洋経済新報社記者）の署名記事を紹介します。

① もうけの仕組み｜化学／資源メジャー／石油
市況に業績が左右されるが､方向感には差あり
(奥田貫/大塚隆史/劉彦甫 : 東洋経済 3/1)
https://toyokeizai.net/articles/-/652925

② もうけの仕組み｜総合重工／自動車部品／非鉄金属

脱エンジン、脱火力の事業創出に取り組む

(高橋玲央/横山隼也/劉 彦甫東洋経済　2/28)

https://toyokeizai.net/articles/-/652922

③ JX 金属の「銅のリサイクル」は供給不足を救えるか

金属・リサイクル部長に可能性と課題を聞いた(劉彦甫 :東洋経済 2/28)

世界で脱炭素の流れが加速する中、大量に使われることになるのが金属。中でも銅は、EV（電気自動車）や再生エネルギー関連に使われ、不足の懸念が高まっている。安定供給をするうえで 1 つの打開策となるのが、リサイクル原料の活用だ。JX 金属の常務執行の属・リサイクル事業部長である安田豊氏に聞いた。

https://toyokeizai.net/articles/-/655075

④「脱炭素」で危ぶまれる銅、ニッケル不足の打開策

JX 金属は「都市鉱山」を活用、鍵は排出量の削減(劉 彦甫 :東洋経済　2/28)

省エネや EV で需要の高まりが予想される金属資源だが、供給の確保に課題が残る。https://toyokeizai.net/articles/-/651375

⑤ 植田日銀総裁候補は国会の所信聴取で何を語るか

「日銀ウォッチャー」みずほ証券・小林氏に聞く(劉 彦甫 :東洋経済　2/23)

日本銀行の新総裁（2023 年 4 月就任予定）が決まったが、10 年続いた黒田東彦総裁体制に換わる植田新体制をどのように予想したらいいのか。日銀ウォッチャーでもあるみずほ証券の小林俊介チーフエコノミストに聞いた。

https://toyokeizai.net/articles/-/654220

劉記者の過去の記事一覧　下記サイトを参照

https://toyokeizai.net/list/author/%E5%8A%89+

５． 最近の台湾関連ニュース

■ 台湾・蔡総統、来月にも訪米　英紙報道　下院議長とも会談へ（産経 3/8）

■ 日本の退役戦闘機　国交断交後の台湾守る 元空将補冷戦期密話を発掘（産経 3/4）

1972 年に台湾と国交を断絶した後、米国開発 F104 戦闘機（日本仕様）37 機が台湾に引き渡され、台湾の空軍が 1986 年から 90 年代前半まで運用して台湾海峡の制空権を確保するのに貢献した。日本の元空将補が調査した。当時台湾と国交断絶でさらに「武器輸出三原則」があったため、海外移転はご法度だったが、米国への現物返却時に直接台湾へ移転された。

■ 露の歌手 台湾でコンサート中止 市民団体など反発（産経 3/2）

ロシア出身の世界的ソプラノ歌手、アンナ・ネトレプコ氏（オーストリア在住）の 5 日の台北コンサートが中止となった。理由は、プーチン大統領に近いとされ、ウクライナが制裁対象とした芸術家に含まれるため。これに対して「過去の言動が誤解を受けた可能性がある。プーチン氏とは数回しかあったことがない」と声明。

■「台湾独立」派 辜寛敏氏死去　96 歳　「2.28 事件」後　日本へ亡命（産経 2/28）

2008 年 81 歳の時に民進党の党主席選挙にも立候補したが、蔡英文氏に敗れた。息子は野村総研のリチャード・クー氏、異母兄は海峡交流基金会の理事長を務めた辜振甫氏だった。

■蔡総統 8 月までに訪米　米台調整、緊密アピール（産経 2/25）

蔡総統の訪米が実現すれば 2019 年 7 月以来となる。訪問案は、①母校コーネル大学で講演、②米シンクタンクが主催するイベントに参加、③南米パラグアイの大統領就任式に出席し米に立ち寄る案。

■米超党派議員団が台湾訪問（産経 2/20）

台湾外交部は 19 日、米国のカンナ下院議員が率いる超党派の議員団が訪台したと発表。

■台湾海峡周辺に中国軍機　米高官の訪台 反発か（産経 2/19）

■米国防総省高官　訪台か　バイデン政権下で初（英紙報道）（産経 2/18）
英フィナンシャルタイムズは、モンゴルを訪問中のチェイス米国防次官補代理（中国担当）が数日中に台湾を訪問する予定だと報じた。

■台湾離島で気球残骸　中国本土の簡体字表記（産経 2/18）
邱国正国防部長は17日、台湾の離島、馬祖列島の東引島に気象気球の残骸とみられる物体が落下しているのを16日に発見したと明らかにした。なお、台湾本島と馬祖列島を結ぶ海底ケーブル２本が1日と8日に中国船によって切断された疑いがあると発表。

６．月例サロン講演会報告

①山田周平先生サロン講演 2/18

（写真：日本経済新聞社）

月日：2023 年 2 月 18 日
講演者：　山田周平（現 桜美林大学教授）
題　目：　台湾の半導体産業と東アジアの経済安全保障
経歴　1991　　早稲田大学政経学部卒、日本経済新聞社に記者として入社
　　2004-08　台北駐在 岩永日僑工商会会長（現日台稲門会名誉会長）から知遇を得る
　　2013-17　北京駐在
　　2022　　日台稲門会再入会
　　2023　　桜美林大学教授

経済記者時代の前半はエルピーダやルネサステクノロジー（今はルネサスエレクトロニクス）に代表される半導体取材にタッチし、後半は海外報道編集をやった。1 年間の北京での語学留学を含めると合計 9 年間中華圏に駐在し、中華圏の専門となった。たまたま電機業界に長くタッチして半導体についても基礎があったので、2004 年以降 8 年まで台湾の半導体産業にタッチした。日本の記者は中華圏で多くが政治・社会問題にタッチしていたが、自分は経済といってもハイテク中心だった。理由は、台湾のマクロ経済はみても金融政策にしてもほとんど米国との関係で決まるため、深く追求しなかった。

台湾経済を支える大黒柱

台湾の産業構造は、昔はやや電気（電機）に偏った構造だった。白黒テレビなど電気製品を加工して輸出することをやっていたが、これでは産業は高度化できないということで、1970 年代後半から半導体を作ろうとした。それまで国民党政権は、大陸反攻のみを考え、台湾の産業を高度化する必要はないと考えていたが、実際に中国反攻は無理だと認識。台湾として経済発展をするため、半導体のプロジェクトを始めた。そして新竹科学工業園区を物理的にワンストップですべてができる孵化器のようにした。清華大学など理系大学があるため、この工業科学園区に半導体メーカーを集積しようとした。その中の一社が TSMC だった。歴史的偶然やモリス・チャンの経営手腕もあり、TSMC は成功した。半導体の派生として発生した液晶パネルの会社が猛烈な勢いで設備投資をしていて台湾を半導体と液晶パネルの二元で支えるという時期もあった。半導体（IC）と液晶パネルは、薄い膜の上にトランジスターを作るという基本的な技術が同じであるため、半導体で培ったクリーンルームなどの技術が液晶パネルでも使えた。また半導体の発達に伴い、付随の通信機なども育った。

水平分業が２１世紀に定着

日本が強かった 1990 年頃までは IDM（Integrated Device Manufacturer）といって半導体事業を一社がすべて行う垂直統合型であった。しかし、1990 年代半ば頃から分業するようになったが、21 世紀に入ってからはその傾向が顕著である。

半導体のサプライチェーンは、①企画・提案→②回路設計→③前工程→④後工程→⑤販売・物流の 5 段階であるが、①まず何を作るかについて市場に合った製品の企画提案を行う。企画が出来たら、②次にシリコンウエハーの上にどのような回路を作るかのデザインを決定する。③そしてできたものをシリコンウエハーという大きな円盤の上に、露光（日光写真の精緻なようなもの）するのが前工程である。④そしてできたものを切り分けてパッケージしてテストするという後工程を経て、⑤販売する。TSMC はこの前工程と後工程だけに特化した会社である。

アップルはスマホだけでなく、半導体の製造も行っているが、全体として工場を持たないファブレスの会社として TSMC に作ってもらっている。米国のシリコンバレーのファブレス会社がいいチップを思いついて誰かに作ってもらわなければならないといった時に前工程の会社に頼むのだが、そのトップが TSMC である。

TSMC がすごいのは、スタートアップの若い会社に対して「うちの会社に標準モデルがあるからそれを使って設計すれば、そのままうちの工場で作れますよ」という提案やモジュール販売もやれることである。ファブレス業界で TSMC は業界標準になっている。これが TSMC の強さでもある。

世界的供給網を誇る台湾勢

半導体のサプライで一番難易度が高いのはシリコンウエファーの上を露光する付加価値の高い前工程。何ナノメートル（nm）とか言われるのはここのこと。半導体の線の幅は細ければ細いほどチップサイズは小さくなるし、演算のスピードも上がるし、省電力にもなる（ただし、発熱しやすくなるというマイナス面もある）。工場建設は 1 兆円もかかるため、簡単に半導体工場は作れない。結果として、TSMC が業界標準としてリーダーシップをとっている。

ファウンドリー（相手方ブランドで生産）にはどのような会社があるかというと、1 位は TSMC（台）55%。そして 2 位サムソン（韓）17%。3 位グループで UMC（台、TSMC よりも古い）7%やタワーチップがある。

回路設計（ファブレス）では、中華系スマホに強いメディアテックとかエヌビディア（米）が強い。後工程では、ASE（日月光、台）が世界で 2 位だったスピルという会社と 2018 年に統合したが、世界シェア 4 割で後工程に特化した会社である。企画・提案や販売・物流については、中国大陸の会社の方が力はある。

TSMC が経済安保のカギを握る理由

現状、スマホや PC といったものが、アジア太平洋地域で国際分業をしながら作られているが、これらの会社もかなり存在感がある。TSMC が重要である理由は、TSMC の最大のお客さんはシリコンバレー系で北米７0%を占める。日本は５%で低位安定。安保の関係でカギを握っているのは中国。一般的には中国の半導体は遅れているが、回路の幅 17nm 以下のものの台湾のシェアは 92%である。回路の幅の狭いものをファブレスの会社が作りたいと思うと、TSMC に頼むしかない。逆に、TSMC に仕事を頼むのは、技術レベルの高い会社しかない。

TSMC の販売先からレベルの高い半導体を作れる（ファブレス）会社はちょっと前まではアメリカが 7 割と高かったが、最近はじわじわと下がっている。逆に中国がじわじわと上がっている。これは、中国のファブレス化のためである。

米中貿易摩擦は 2019 年 3 月だが、その期間中 TSMC の対中国売り上げは大幅に伸びた。ファーウエイはファアシリコンという子会社があり、自身のスマホにのせる半導体も設計をしているのだが、製造する能力がないため、最先端のものは TSMC に頼まざるを得ない。そのため、中国への TSMC の売上は大幅に伸びた（逆に言うとアメリカが下がるという現象が起きた）。2019 年にファーウエイに対してアメリカが騒ぎ出したため、中国国民は愛国消費の名の下にファーウエイスマホをたくさん買った。そのため、TSMC の中国への売り上げが逆に増えてしまった。中国が TSMC に大量の発注をかけ、TSMC も在庫があったため、ファーウエイのためにチップを販売した。

2020 年 5 月（TSMC が米で工場を建てると決定した時期）に TSMC はファーウエイからの受

注を中止したため、中国向けの売り上げがグーンと下がった。ファーウエイ封じ込めは、TSMC とファーウエイの関係を断つということであった。
ファーウエイの半導体製造能力を下げるため、アメリカは TSMC に「ファーウエイと付き合ったら、アメリカでの取引をできなくするよ」ということを伝えた。TSMC はサムソンやインテルよりも力があるということの証でもある。

ファーウエイは「半導体レス」に移行

米では、最近ファーウエイが話題に上がらなくなった。ファーウエイの売上高は大きく 3 種類に分かれている。①キャリア業務（要は基地局）、インフラ関連、②スマホやスマートウオッチ、パソコンなどコンシューマー関連、そして③クラウドの企業業務関連。2017 年のファーウエイの売り上げの中心はキャリア業務であったが、2010 年、スマホに参入してアップルを追うようになった。しかし、スマホも基地局も半導体を乗せないと機能しないので、自身でファアシリコンという会社を使って、自分が売るスマホの半導体の半分くらいを自分で作っていた。2018 年に米中貿易戦争が始まり、2019 年からファアウエイ制裁を行ったが、先ほど言ったようにこの期間 TSMC の売り上げは増えている。中国が TSMC に半導体を作らせていたからからと TSMC も在庫もたくさんあったため。しかし、ZTE というファーウエイの 4 分の一くらいの規模の通信機の会社では経営陣がやめたり、トラブルが発生して罰金を払うなどもあり、TSMC も在庫がなくなったため、中国向け売り上げは 3 割減になった。今はファーウエイの基地局の売り上げも横ばいで、スマホはもっと下がっている。

TSMC は、17nm 以下の半導体ではシェア 92%とぶっちぎりの一番であり、TSMC 抜きには IT 企業は成立しなくなっている。また TSMC は、後発企業にモジュール販売もしてサービス業のようにもなっている。半導体は、前工程の演算機能、省電力性能が難しく、工場建設は 1 兆円かかるため、簡単に世界展開もできない。そのため、現状 TSMC は工場の 97%を台湾に集積している。これはわざと台湾においてあるのである。半導体は軽く単価も高いため空輸してもペイする。一か所に集中し規模の経済を追求したほうが効率もいいという産業形態であるため、台湾で作っている。

第 2 ラウンドの米中「チップ」対立

アメリカはファーウエイつぶしの第一弾は、TSMC とファーウエイの関係を断つことである。つまり、スマホに載るロジック半導体の能力を裂けばいいと。アメリカが経済安全保障という名において、米国内にも工場を建てろと言ってきたため、TSMC もそれを実行しているが、日本の熊本工場同様に建設費の半分は米政府の補助金。補助金を出す法的根拠を日本同様、アメ

リカも作っている（チップスサイエンス法）。この法律は、米政府が工場建設にお金を出したら、今後 10 年間 28 ナノ以上のレベルの工場を中国に進出して作ってはならないという条件付きである。TSMC は、南京と上海に工場をもっており技術水準は低いが、今後も投資したいという考えを持っている。しかし、それもアメリカは封じた。韓国メーカーは西安、大連、蘇州（か無錫）にメモリーの工場を持っているが、メモリーはソフトウエアーというよりも回路を細かくすることが性能そのものであるため、新しい投資ができないと工場は枯れてしまう。中国が半導体を発展させるため、台湾からかなりの技術者を呼んでいるが、そのかなりの技術者が米国籍である。中国で今後も働く場合は、米国籍をはく奪されるというリスクがあるため、このような技術者（Taiwanese born in America）は台湾に戻るということが起きている。またデルとか HP など中国に半導体を発注していた会社も台湾に発注を変えるという事態が起きている（技術水準の高くない製品が UMC から台湾に移るかもしれない）。この結果、AI 半導体を考える中国のスタートアップ企業は、製造を頼む会社が中国にいなくなってしまった。回路の細いコンピューテイング系製造会社は、発注先がなくなるという気の毒な状態になった。ファーウエイ封じの時は、思考型半導体だったが、中国系の記憶半導体メモリー（フラッシュメモリー）も名指しで封じている。ファーウエイつぶしからある一定のレベルの半導体を作る中国メーカーも封じ込め政策を受けざるを得なくなった。これが第二弾。

地政学・経済安保の焦点に

今、中国は台湾侵攻、台湾の取り込みをスピードアップしようとしているが、その理由の一つに台湾には半導体があるからそれを入手したいと思っていることである。しかし、産業実態を考えると現実的でない。2022 年 7 月の TSMC のモリス・チャン会長が CNN のインタビューで、台湾に半導体があることが中国の侵攻を進めるのにプラスですか、マイナスですかと質問を受けた時に、「武力で工場を押さえても、そもそも工場をコントロールできない。工場はあまりにもレベルが高い（highly sophisticated な）ため、誰かが来てオペレートできるものではない。またリアルタイムで台湾以外の地域、たとえばヨーロッパや日本のサプライヤーとつながって運営されているものだから、誰かが（台湾にきて）工場を運営できるようなことにはならない」と答えた。ファウンドリーとして半導体メーカー各社と一体で半導体を作っているため、中国が占領して運営することは無理。金鉱山があるとか、農業に適する土地があるとかなら、土地をとればいいかもしれないが、サプライチェーンの中にいてこそ価値のある半導体に対して、台湾を占領すればどうにかなるという考えはあまりにも短絡的である。台湾を占領した段階で TSMC の価値はゼロになる。それが非常に大事である。

日本はどう付き合うべきか

それでは、日本は TSMC とどう付き合うか？日本は 2021 年 10 月に TSMC と熊本に 86 億ドルで工場を作ると発表し、これで日本の半導体が復活すると言われたが、復活はありえない。熊本工場の実態はソニーに半導体を供給するために作るものしかないので、高レベル半導体ではない。ソニー製品に使われるイメージセンサーの世界シェアは 6 割であるため、ソニーはセンサーを作ることは得意だが、センサーを動かすためのロジック、つまり論理回路系は苦手である。昔は自分で作っていたが、途中であきらめて台湾のＵＭＣや TSMC から買うようになった。どうせなら、自分（ソニー）の工場の横に作ってくれということになっただけである。ソニーのイメージセンサーの回路は、最先端回路を使っていないため、最新では物理的に回路が合わないため、20nm などわざと古いものを作らざるを得ない。熊本で TSMC が最先端の半導体を作らないという批判もあったが、そもそも問題の設定自体が間違っていた。イメージセンサーに合わせるような回路は、20ｎｍなど一般的なものにせざるを得なかったのである。日本政府が 4760 億円を出すのはいいが、TSMC は強い一方で、海外経営は非常に脆（もろ）い。海外工場の運営はあまりやってこなかったためである。そのため、サプライチェーンをしっかり保証して（フォローして）あげないと工場は動かないということになりかねない。日本政府はそういう支援をした方がいい。

より詳しく知りたい方は

私は、記者をやりつつ、日本経済センターという日経のシンクタンクの研究員も兼ねている。毎年二本のレポートを書く。今日話したのは、これらのエッセンスである。2022 年度は台湾の経済安全保障というテーマで書いている。それも今日話したことに入っている。それとは別に中国に限った半導体のことも書いた。それらが合わさって今日の話になっている。・『技術覇権米中激突の深層』、『米中分断の虚実』、『東アジア最新リスク分析』

番外編：鴻海によるシャープ再生

シャープが鴻海に 2016 年に買収されたが、鴻海から派遣されてシャープを運営した戴正呉さんの会長を退任された後に、自伝製作をフォローした（『シャープ　再生への道』2023 年 2 月 22 日発売）。鴻海は深圳に 40 万人の工場をもっているが、責任者としてそれを運営した人物である。そこで書いたのは、「鴻海によるシャープ買収は、当時、日本の電機大手がアジアの新興企業に飲み込まれる衝撃、経産省が描いた業界再編成の是非などさまざまな角度から経済論壇を賑わせたが、当事者が証言するのは本書が初めて。近年の日本と台湾の経済交流において、戴氏ほどその実力や個性を発揮した台湾の経営者は珍しい。日台の経済交流は 21 世紀にはいり、日本統治下で教育を受けた知日派の台湾経営者が現役を退き、人的つながりは細る傾向に

あった。台湾を代表する鴻海で副総裁に努めた手腕を持ち、長年の日本ビジネスで日本の商習慣や文化を熟知している戴氏は日台の経済交流の第一線まで立ち続けた貴重な存在である。本書は、そんな戴氏の視点でシャープの再建を描いている。本書が、一般的な本とは異なる 3 つの特徴は、一つ目、台湾の視点で書かれている点。戴氏は、鴻海がシャープ買収に動いた点としてシャープブランドの価値を認めたことを挙げている。台湾の電機産業はＥＭＳの鴻海、半導体の TSMC など大手を有するものの、韓国のサムソン、中国のファーウエイのような世界に通用するブランドがない。シャープ買収でその弱みを補おうとしようと思った。シャープの技術を吸収するという動機ではない。二つ目は、シャープと中国の関係を冷静に分析している点。鴻海は、世界の工場中国を現場で支えてきた台湾の企業であり、戴氏は山東省煙台や貴州省で共産党幹部と親しく交流した。しかし、シャープの今後の生産拠点は中国ではなく、東南アジアを推奨している。一般に親中派とされる鴻海だが、人件費高騰やコロナ禍における投資環境の悪化を客観的に捉え、シャープに適した海外展開を志向した。三つ目は、日台の経済交流の側面だ。戴氏は、シャープの買収交渉や経営手法を通じて、日本の大企業での社内の権力争いなど病巣を知った。知日派の海外経営者が日本企業の強さと弱さを感じて来たことを知ることは、日本企業を活性化させるヒントにもなる。
日本では近年、中台間関係を緊張に伴う半導体の調達など経済安全保障の観点から台湾の重要性を指摘する論者が増えてきている。しかし、その多くが台湾企業の実力や日台経済交流の現状を正確に把握せず、政治や外交の視点に偏った議論を展開しているのが実情である。本書には、日本、台湾そして中国の産業連関の実話が詰まっている。シャープの動向を知りたい電機業界関係者だけでなく、台湾に関心を持つ方々に広く手にとってもらいたいと思っている。」

②若林正丈名誉教授講演会（三年遅れの最終講義）

（写真：早稲田大学）

月日：2023 年 2 月 25 日　場所：早稲田大学 8 号館 308 号室
演題：**「『台湾研究序説』の構想：代わり変わる帝国と台湾という来歴」**
謝長廷台北駐日経済文化代表処代表と谷崎日本台湾交流協会理事長臨席の下、若林名誉教授の退官最終講義がありました。台湾とは何かの研究を社会科学的アプローチで分析するだけでなく、その来歴をたどりながら、台湾に飛び込んで台湾の人々に寄り添った研究を 50 年余りにわたってやった。台湾という個性を把握するためには、「今（台湾の政治変動）」を注視するだけでなく、その「来歴」、つまりオランダ統治、明鄭統治、清朝統治、日本統治、国民党時代）という各時代の異なった国家とそこに住む住民（先住民族、中国大陸からの漢人など）の相互作用の積み重ねを注視することから、「台湾は住民があって国家ができるステート・ネーショ

ンではなく、まず国家があってそこに国民を入れるネーション・ステートだった」という理論を見つけ出した。外部に翻弄された時代から自分たちの意志で「国家」というものを作り上げたことは世界的にみても意義あるとした。学生に対しても非常に厳しかったようで、自分の背中を通じて台湾研究を教えるという姿勢を貫いたと述べた。

動画は右記を参照　https://www.youtube.com/watch?v=XJJltX39s64

７.春季講演会　(予定)

日時　：2023 年 4 月 8 日(土)　15:30～17:30
場所　：早稲田奉仕園・リバティルーム（新宿区西早稲田２－３－１）
講師　：一青妙（ひととたえ）
演題　：「日台関係の未来と台湾アイデンティティ」（仮題）
Online はありません。会場での講演のみです。
また、講演後、近くのレストランで「日台交流の夕べ」（懇親会）を行います。
講演会・懇親会とも申し込みは、下記からお願いいたします。
URL:　https://office.nittai-toumon.com/entry/

８．台湾ドラマ紹介「茶金 ゴールドリーフ」（川村由紀さん）

（写真：ＳＰＯエンタメ倶楽部）

1949 年以降、戦後台湾の製茶業界を描いたドラマです。
政局が安定しておらず、政府の一声であっという間に
状況が変わってしまう時代。困難を乗り切ったと思ったら
また新たな困難が主人公たちに降りかかり、毎話毎話ハラ
ハラさせられます。そんな時代の波に翻弄されながらも、
何とか知恵で乗り切ろうとする娘の薏心と、なんだかんだ
言いながらも彼女をサポートする父の福吉。
お茶のビジネスをわかっていないと厳しい言葉を浴びせながらも、薏心のビジネスセンスには一目置いている様子がうかがえます。
さらには昔ならではの価値観などにも登場人物たちは振り回されていきます。

養子、お見合い、女性の社長や茶師に対する厳しい目、年齢差の恋、身分差の恋、戦争孤児、家督が継げない弟の野心、阿片中毒などなど。そして時代はより厳しい局面へと入っていきます。
本作の主人公などは実在の人物を参考に描かれており、時代に翻弄されながらも時代を切り開いていった人たちの姿に胸を打たれる作品となっております。
日本公式 HP：https://www.cinemart.co.jp/dc/t/chakin.html

9. 台湾有事と中国のジレンマ　　（橋本紀明）

ここ数年政治面からしか、中台関係を見てこなかった。今回、山田先生から TSMC の話を聴いて感じた。台湾は 17nm 以下の半導体の世界シェア 92%もあり、かつその中心である TSMC はその生産拠点の 97%が台湾にある。しかも各国のライバルが簡単にはまねできない高レベルの製品を作る。中国のファーウエイですら台湾に依存せざるを得ない（技術レベルを考えると台湾産に依存せざるをえない）のが現状。とすると、もし台湾を攻めた場合、そのつけは自らに降りかかる可能性が高い。以前台湾有事を台湾の人に聞くと、中国の侵攻はありえないと答える人が多くて不思議でならなかった。今回話を聞いて、台湾侵攻は台湾を破壊してしまうだけでなく、中国の産業（経済）自体にも多大な影響が及び、取り返しのつかないことになるということを台湾の人は知っていたし、中国ですら知っていたのだろう。中国の国際的名声はもちろん下がる。中国の台湾侵攻は、まさに天に唾をするようなものなのである。講演を聴いて、中国が台湾に嫌がらせをしても台湾の株式が下がらない理由もわかった。台湾侵攻は中国のジレンマでもあるのだ。中国の王毅氏が共産党政治局員になったころから、「戦狼外交」の趙立堅報道官が異動（左遷？）になった後、中国は日本と話し合いをしましょうと提案。ウクライナ問題ではロシアに和平仲介を申し入れるようになった。経済的な実利を中国も考え始めたのかもしれない。

10.『台湾検定 6 級（華語に興味のある人向け）』・7 点以上で合格

①マングローブを華語で言うと？　　(a) 紅樹林、(b)砂樹林、(c)水樹林

②日本からの出張者が林森北路でお店の女性に「日本語うまいね」、「きれいですね」と言うと、返される言葉は？　　(a) 知道了、(b)没問題、(c) 拍馬屁

③ タクシーの運ちゃんに、「あの信号を（右に）U ターンしたところで下して」というには？
(a) 那個紅綠燈過了以後我下車、(b) 那個紅綠燈回轉我下車、(c) 那個紅綠燈處右轉直行

④　床屋で「(髪を）ちょっと切って」いう華語は？
（a）剪斷牛角、(b) 剪頭髮整齊、(c) 剪頭髮一點

⑤ レストランで「この料理を小さいお皿に小分けにして」という華語は？
(a)分一分、(b)太好了、(c)明白了

⑥ スマートフォンの華語は？　(a)手電脳、(b) 智慧手機、(c) 大哥大

⑦ プラカードをもつデモ（パレード）を華語でいうと？　(a)抗行、(b)遊進、(c)遊行

⑧ 台湾で華語を学ぶとき、ポボモフォという発音記号を使いますが、母音記号はどれですか？　(a) ㄑ、(b)ㄆ、(c) ㄜ

⑨ 台湾の華語では、トマトは何と言いますか。(a)西紅柿、(b)番茄、(c)土豆

⑩ 台湾ではカップラーメンなど即席めんを「泡麺」とよく言いますが、そのほかよく使われる言い方は何でしょう？　(a)方便麺、(b) 快熟麺、(c)速食麺

4 月は 5 級です（台湾に友達がいて台湾の流行に敏感な人向け）

編集後記

手書きで米粒に何文字書けるか？現在のギネス記録は、日本人の般若心経 5551 字だとか。中国返還前の香港で６ｍｍ×２ｍｍのプラスチック板に「楓橋夜泊」の詩が印刷されている小さなカプセルを買った。
たった 36 文字であるが、それでも肉眼では読めない。
しかし、今回、山田周平先生の講演を聴いて、半導体チップの上なら楓橋夜泊を 100 万個(3600 万字)書けると思った。　1mm を 100ｍとすると、１nm は 0.1ｍｍに相当する。３nm(ナノ)のチップは、新型コロナウイルス(100nm)　より３３分の一の大きさ。日本の自動車産業は、メーカー（売上 70 兆円）を筆頭にピラミッド構造で全体売上は 130 兆円くらいだと言われている（推定)。TCMS の売り上げが 10 兆円とすると台湾半導体産業もピラミッド構造をしているなら全体では 50 兆円（推定)。2022 年に一人当たり名目 GDP で台湾に抜かれた日本。産業の成長スピードを考えると今後さらに引き離されそうだが、日本も追いついていって欲しい。(橋)

台湾検定６級正解.

① *a, ②c, ③ｂ ,④ｃ ,⑤a ,⑥b , ⑦c , ⑧a, ⑨b, ⑩c*

① a 紅樹林。淡水周辺のマンション販売広告塔に出る。b と c は造語。

② c 拍馬屁、你真會拍馬屁お世辞がうまいですね。中国北方の遊牧民が、暴れ馬がおとなしくなった時に、よしよしと馬の尻を叩いて褒めたからだとか、草原で出会ったときにお互いに馬の尻を叩いたからだとか言われている。 c は知道了（知っていますよ)、b は問題ない（当然)。

③ b 那個紅綠燈回轉我下車（信号をＵターンして止まって)。a は那個紅綠燈過了以後我下車（信号を過ぎたところで止まって)、c は 那個紅綠燈處右轉直行 （信号を右に曲がってそのままま っすぐ進んで)

④ c 剪頭髮一點(軽く髪を切る)。a は剪斷牛角（角刈り)、b は 剪頭髮整齊（きちんと髪を切る)

⑤ a 分一分（分けて。ラフな言い方)。 b は太好了（素晴らしい、いいね)、c は明白了（わかりました)

⑥ b 智慧手機（スマートフォーン)。a は造語、 c は 90 年代の携帯電話

⑦ c 遊行。a と b は造語。

⑧ c ㄜ（e の音)。a ㄑ（ q の音)、b ㄆ（p の音)。夫に帯同して台湾駐在する（日本で北京語を全く習ったことがない）奥さんの方がポボモフォを早く覚える。日本で少しでも北京語を勉強した方（夫）は記号をなかなか覚えない。

⑨ b 番茄、トマト味の刀削麺はうまい。

⑩ c 速食麺。a は中国での言い方。B はシンガポールでの言い方。

華語文聽力測驗に興味のある方は、以下サイトをご覧ください。
https://tocfl.jp/educational_materials/